

トキ次郎奮戦記

2023/10/8 能登トキファンクラブの来年度の主活動に、ゆるキャラのトキ次郎の制作を決定

2023/12/15 トキ次郎のフィギュアを作成する



2023/12/25 北國新聞と北陸中日新聞の取材を受ける、年明けの1月3or4日に新聞に掲載の予定

2024/1-/1 能登半島地震発生トキ次郎はボロボロになりました



新聞掲載実現せず

町民のみなさんが壊滅的な被害を受け、能登トキファンクラブの会員の皆さんも同様の被害状況で能登全体が悲痛のどん底に沈んでいるのにトキの放鳥は勿論、トキ次郎どころではありませんでした

2024/4/14 北國新聞に「心寄せるシンボルを」と題しくまモンを育んだ元熊本県職成尾雅貴氏の記事で「くまモン」が熊本地震でのシンボルとして大きな役割を果たし、復興から飛躍へと熊本を導いた経緯を知りました。

一度は絶滅したトキを再び能登の大空に復活させ、能登地域に活力を生みだそうとする放鳥を支援する「能登トキファンクラブ」の活動の一つである「トキ次郎」の制作はトキの放鳥支援を超え地震からの復興のシンボルに成りうるのではと改めてトキ次郎の制作に取り組み始める。

2024/4/15 トキ次郎の頭の制作が始まる

厚紙を円錐状に12枚用意し地球儀を作る要領で張り合わせ球体を制作し、その上に新聞紙を5層ノリで張乾燥後紙粘土を3回塗り付けることにより制作

2024/5/3

胴体の制作に取り掛かる身長は175 c mと決める
針金で球体を作り、厚紙を提灯のように針金の上
に張り付けその上に新聞紙を3重に張、その上に
障子紙を3重にノリではり、更に上に紙粘土を3
重に塗り乾燥させることにより作製する



2024/5/20

足部の制作に取り掛かる、脛はモウソウ竹を使用
足は発泡スチロールで、尻尾と羽は床用断熱スチロールで制作
表面を新聞紙で覆いその上に紙粘土を塗りました

2024/5/25

半ズボンなど装身具を作成する

2024/5/28

着ぐるみの予定でしたが紙粘土は強度がなく
1度は着れても破損が考えられ、今回は人形
として利用することにする



2024/5/31



トキ次郎が8羽のスマール
トキ次郎が8羽のスマール
共に完成

当初は175cmでしたが足が長くバランス取れなかつたので足を10 c m切ったため身長は165 c mになりました

2024/6/12

穴水町大町の吉村商店の前に初出現

2024/6/17

トキ次郎が穴水町第3仮設に出現したことがNHKかがのとで放映される

2024/7/12

北川内科クリニック待合室に出現

2024/7/21

穴水町長谷部まつり舞台前に出現

2024/7/23

334-D地区3R3Zライオンズクラブ役員会場に出現（羽咋市）

2024/8/1

334-D地区3R3Z七尾ライオンズクラブ家族例会に出現（七尾市）